

105) 海

空まで続く坂道を 登りつめると海がある
ここはふるさと九十九里 ^{ひとり}孤独になるとここに来た
もう帰らない過ぎし日が 海を見てるとよみがえる
そんな気がして ^{いくたび}幾度か 朝な夕なに海を見た

海はふるさと海は母 海はふるさと海は愛
哀しい日々 ^{おもいで}の追憶を 砂に刻んで海を見る
今は帰らぬ人々の 面影などが目に浮かぶ
海を見てるといつの日も 海の空気に溶けてゆく

刻々変わる海の色 僕の心の縞模様
夜明けの海は絵のように 明と暗とが交差して
真昼の海は眠たげに けだるい午後を映してる
海の暮れ方濁り酒 酌み交わしては海と酔う

母なる海よ大いなる 野望に満ちた人生に
見果てぬ夢をいつまでも 僕の心に与えてよ
夢ちりじりに帰る日は 母の心で迎えてよ
海に抱かれこの生命 明日に向かって旅立とう

海はふるさと海は母 海はふるさと海は愛
海に抱かれこの生命 明日に向かって旅立とう